

〈解答〉

- ① 1 〔例〕 He ate curry and rice (.)
2 ① イ ② イ ③ ア
3 A 〔例〕 長所 [よいところ] B 〔例〕 方法
4 イ
- ② a 〔例〕 I often go to the library to borrow (some) books.
b 〔例〕 Reading [To read] books is more interesting than watching [to watch] TV.

配点 ①の2, 3は各1点, 他は各2点 13点満点

〈解説〉

① 〈長文和訳〉

世界には多くの子どもたちがいます。しかし、彼らの中にはじゅうぶんに食べることができない子どももいます。そのような子どもたちについて考えたことはありますか？

先月、私は昼食のためにレストランに行きました。そのレストランで、特別なメニューを見つけました。そのメニューから食べ物を注文すれば、アフリカの子どもたちを助けることができるのです。私はそのメニューからカレーライスを注文しました。私はおいしい食事を楽しみ、アフリカの子どもたちのために何か① **よい** ことをすることができました。

この特別なメニューのシステムは非常に簡単です。そのメニューから食べ物を注文すれば、20円がアフリカの国々に送られるのです。日本では、20円では多くのものを買うのにじゅうぶんではありませんが、アフリカの人々にとっては非常に役立ちます。20円あれば、子どもは学校で昼食を食べることができるのです。

このシステムにはいくつかのよい点があります。日本の人々にとっては、その特別なメニューを注文することで、遠く離れた子どもたちを助けることができます。アフリカの子どもたちにとっては、学校で昼食をとることができます。アフリカでは、家にいて家族を手伝わなければならない子どももいます。② **そのため** 彼らは勉強したくても学校に行けないのです。また、彼らは家で食べるものをじゅうぶんに持っていません。もし、学校が昼食を無料で提供すれば、彼らの親は学校に行くように彼らに言うかもしれません。そうすれば、彼らは昼食を食べ、学校で読み書きのしかたを学ぶことができます。

世界中の多くの人々がこの特別なメニューに興味を持ち、システムが簡単であるため人気が出ました。現在、日本では100以上のレストランがこの特別なメニューを利用しており、アメリカのいくつかのレストランもこのメニューを利用し始めました。このシステムは、2007年に何人かの日本人によって始められました。学校給食をよく知っているため、彼らはそのシステムを考えついたのです。日本では何年も③ **前に**、多くの子どもたちがじゅうぶんな食べ物がなく、彼らも学校給食で助けられたそうです。今、学校給食はアフリカの子どもたちに食べ物を与えています。

人を助けることは難しくありません。もししたいと思えば、アフリカのような場所の人々を助けることができます。簡単な方法で、なじみのある方法でそれを行うことができます。日常生活の中で人々を助ける方法を見つけましょう。

1 問いは「ウィルソン先生は先月、レストランで特別なメニューから何を食べましたか?」という意味。

第1段落3～4行目参照。「私はそのメニューからカレーライスを注文しました。私はおいしい食事を楽しみ～」とある。よって、

→ He ate curry and rice. などと答える。

2 ① 本文第1段落3行目を参照。「私はアフリカの子どもたちを助けることができますのです」とあるので、イ good が適当。something good で「何かよいこと」という意味。

② 直前の文は「アフリカでは、家にいて家族を手伝わなければならない子どももいます」という意味で、空所のあとの部分は「彼らは勉強したくても学校に行けないのです」という意味なので、イ So「そのため」が適当。

③ 空所を含む文は過去の文なので、ア ago が適当。many years ago で「何年も前に」という意味。

3 A 本文第3段落最初の文を参照。good points は「よい点、長所」という意味。

B 本文第5段落最後の文を参照。ways to help people は「人々を助ける方法」という意味。

4 ア 本文第1段落2行目を参照。昼食を食べるためにレストランに行ったとあるので誤り。

イ 本文第2段落最後の文を参照。この内容に合っているので正しい。

ウ 本文第3段落2～3行目を参照。家にいなければならない子どももいるとあるので誤り。

エ 本文第4段落3～4行目を参照。日本人が始めたとあるので誤り。

② 〈和文英訳〉

英作文の解きかたを確認しよう。まず、日本語をよく読んで、以下のポイントを押さえよう。

① 「文の種類」を判断する。

→ (肯定文, 疑問文, 否定文, 命令文など)

② 「時制」を判断する。

→ (現在, 過去, 未来の文など)

③ 「主語」と「(助) 動詞」を判断する。

このあとに、必要があれば、疑問詞や、修飾語句などを付け加える。

慣れないうちは、文頭から書こうとせずに、分かるところから書くようにしよう。

a 「私は本を借りによく図書館へ行きます」

① 肯定文：～です

② 時制：現在

③主語：私

動詞：～行く

主語は I。動詞は「行く」= go を使う。「図書館へ」は to the library と表す。「よく」は often。

ここまでをまとめると、I often go to the library. 「私はよく図書館へ行きます」となる。

これに「本を借りに」= 「本を借りるために」を加える。「～するために」は副詞的用法の不定詞 (to + 動詞の原形) で表すことができる。「借りる」= borrow。

まとめると、

→ I often go to the library to borrow (some) books.

となる。

b 「本を読むことは、テレビを見ることよりおもしろいです」

①肯定文：～です

②時制：現在

③主語：本を読むこと

動詞：～である

「～は…より～です」なので、比較の文をつくることを考える。「～は」は「本を読むこと」, 「…より」は「テレビを見ること」であり、どちらも動名詞か名詞的用法の不定詞 (to + 動詞の原形) で表すことができる。

「本を読むこと」= reading books [to read books]

「テレビを見ること」= watching [to watch] TV

「おもしろい」は、形容詞 interesting を使う。more をつけて比較級にする。

まとめると、

→ Reading [To read] books is more interesting than watching [to watch] TV.

となる。